



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(26)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



教区の皆さん、新年明けましておめでとうございませぬ。過ぎた一年を振り返ってみたいと思います。

してこられました。行政のおおらかさに驚くとともにカトリックの参加が低調なことを反省しています。昨年はシドゥチ神父上陸三百周年ということで、特別講演会も企画されました。シドゥチ神父は、新井白石との問答を通して西洋の事情を明らかにし、閉ざされた日本が海外に大きく目を開き、ついに文明開化を果たした影の立役者であったこと

新年に皆さんの躍動とエネルギーに期待

新寄

鹿児島教区 司教 郡山健次郎

先ず十一月二十四日の列福式は天候のことも印象に残りましたが、あれだけの人が一堂に会したというだけでも日本の教会にとつて大きな出来事でした。長い間、祈り続けてきたレオ税所七右衛門が一八八人の一人として福者に上げられたことは大きな喜びでした。

教区評議会

この声は是非取り上げられなければなりません。どこの新聞でもありません。どこの新聞でもありません。どこの新聞でもありません。

その後

この声は是非取り上げられなければなりません。どこの新聞でもありません。どこの新聞でもありません。どこの新聞でもありません。

助祭団構想

この声は是非取り上げられなければなりません。どこの新聞でもありません。どこの新聞でもありません。どこの新聞でもありません。

青少年司牧

この声は是非取り上げられなければなりません。どこの新聞でもありません。どこの新聞でもありません。どこの新聞でもありません。

このことに関連して申し上げたいことは屋久島のシドゥチ祭のことです。こちらは、屋久町が二十六年間これを守り続けてくれました。毎年十一月二十三日午前九時から九時半、参加者が少なからうと町の行事の一つとしてきちんと継続

て、希望が湧き、心が元気になることです。問題解決のための話し合いも必要でしょうが、問題がなくなることはありません。問題に直面する強さこそ必要なのではないでしょうか。必要なのは必要です。そんな見通しを立てさせてくれたのがあのかち合ひだったのだと思います。ですから当然「またしたい」という気持ちに

祭然り、おはら祭り参加然りです。話が少しそれましたが、どうぞ、各小教区で評議会と同じテーマの下で「み言葉に触れた体験、食べ方の体験、み言葉に生かされた体験」を分かち合う機会を作っていただきたいと思ひます。継続すること、きつと、信仰共同体の一員であることに喜びを感じるだけでなく、自分の体験がほかの人にとつて恵み

に八人でした。昨年の挨拶にも書きましたが青少年の信仰育成は差し迫った問題だと思ひます。彼ら若者たちの出会いは活発になされていいますが、大きなビジョンのもとに系統だったプログラムを持つているわけではありません。そこは司祭たちの出番だと思ひます。その点では、昨年の研修会に続く今回の初会合には大きな意義を感じています。今後は、九州の青少年信仰養成プログラム開発を目指した司祭たちのネットワークが展開されるものと期待しています。

2009年 それでも…喜び・希望・感謝!

司教 郡山健次郎 名誉司教 糸永真一 司教総代理 小川靖忠

鹿児島地区 松田清四朗(始良)、寝占敦之(指宿)、泉 浩二(加世田)、小川靖忠(鴨池)、美島春雄、山口好信(ザビエル)、J・ムイベルガ、W・フリチェル、J・ハンマ(谷山)、S・ロベルト(玉里)、竹山 昭(紫原)、牧山田一(吉野)、G・ティエン(種子島)、国原武志(国分)、永山幸弘(マリア山荘)、中野裕明、松森孝郎、O・ベルナルディーノ(教区本部)、岡俊郎(純心聖母会鹿児島修道院)、J・タム、J・ドゥン(福岡聖スルピス大神学院)、田辺 徹、成相明人、田原 章(引退)、浜崎眞実(出向)

大隅地区 M・ヴィゴロ、東 研(鹿屋)

北薩地区 大松正弘(出水)、山口重義(阿久根)、M・アッシャー(入来)、J・レヒナ(大口)、橋口啓悟(川内)

大島地区 大野和夫(地区長館)、内野洋平(大笠利)、末吉卓也(瀬留)、P・アン(大熊)、小隈憲士(名瀬聖心・地区長)、H・ソーザ(小宿)、柳本繁春(古仁屋)、瀧 憲志、浜田盛茂(古田町)

徳之島地区 福崎英雄、T・メニッヒ(母間)、H・ハヌス(和泊)



「全信者の請願を受理し、列聖省の助言に基づき、一六〇三年から一六三九年に、イエズス会盛式誓願修士ペトロ・カスイ岐部司祭と殉教者である以下の尊者を使徒的權威によつて福者の列に加えませよ」との教皇書簡を教皇代理サライバ枢機卿が読み上げた十一月二十四日(月)の列福式。そのミサで説教した白柳枢機卿は、殉教者が働いた当時の家庭教会を基盤とする信徒の活躍を例に挙げ、その上で現代の私たちに「恐れるな。ひるむことなく邁進せよ」とメッセージを送った。

皆さん、私達はいま、「ペトロ岐部神父と一八七二人日本殉教者」が列福され、大きな喜びと深い感動を味わっています。ところで私達は「殉教者、殉教者」と、いとも簡単に呼んでいます。が、一体、どのような人を殉教者と呼ぶのか、まず、その言葉の意味をはつきりさせることからお話を始めたいと思います。

カトリック教会では、伝統的に、信仰の真理を証しするために、すなわち、イエス・キリストの恵み、神様の愛を忠実に証明するために命をささげた人を指して、殉教者と呼んでいます。これはイエス・キリストに倣う最高の生き方であり、キリストの証しと救いの業への最高の参与として捉えられています。

新約聖書の終わりの書、ヨハネによる「黙示録」は「忠実に真実な証人」(黙示録三章14)であるキリストに倣つて教会と世界に血の証をした殉教者が受けた試練と栄光を讃えています。

教会の歴史をみますと、初代教会から現在に至るまで、世界の各地にキリストに倣つてこのように、血を流して神様を証した殉教者は枚挙に暇がありません。

覚えていますか？あの日のメッセージ 白柳枢機卿の説教で振り返る列福の日

師たちの追放を命ずる「伴天連追放令」を出し、地域的に温度差はありましたが、各地で迫害が始まりました。まずキリスト教を宣べ伝える宣教師とその身近な協力者が迫害の対象となりましたが、次第に地域も対象も広げられ、秀吉の追放令が出て、十年目の一五九七年にフランシスコ会のペトロ・パプチスタ神父、イエズス会のパウロ三木神父をはじめとする聖職者九人と信徒十七人の所謂二十六聖人の殉教がありました。

徳川の時代に入り、家康、秀忠、家光と代を重ねるに師たちの追放を命ずる「伴天連追放令」を出し、地域的に温度差はありましたが、各地で迫害が始まりました。まずキリスト教を宣べ伝える宣教師とその身近な協力者が迫害の対象となりましたが、次第に地域も対象も広げられ、秀吉の追放令が出て、十年目の一五九七年にフランシスコ会のペトロ・パプチスタ神父、イエズス会のパウロ三木神父をはじめとする聖職者九人と信徒十七人の所謂二十六聖人の殉教がありました。

教訓たちが自由には働けるか否かは、その地の権力者である大名たちによって決められていました。快く受け入れた大名、条件つきで受け入れた大名、拒絶した大名などありました。フランシスコ・ザビエルが当時の都、京都を訪れ天皇と佛教の最高学府比叡山に敬意を表し、日本全国への宣教師許可を求めたために、面会を願ったところ、その面会は断られ、失望のうちに京を離れたことは、よく知られていることです。

3 また性別、年齢、職業などをあげますと、男性百二十一人、女性六十七人、年齢では最高年齢者は米沢の武士、ルイス甚右衛門の八十歳から一歳の子供まで含まれています。なんと一歳から四歳までの子供が二十九人もいたのです。そのほかの人は、殆ど働き盛りの人でした。職業としては上級武士、下級武士とその家来、一般庶民、農民などとその妻、子供、奉公人のような方々で、健康人だけではなく、身体障害者二人も含まれていました。

このたびの福者の中で目立つことは、一家揃つての殉教です。主人、妻、子供たちというケースが大変多いことです。これは司祭たちによる熱心な信徒養成、また、家族一体となつての信仰の実践、近辺の信徒の家庭が一緒になつて小さな教会の役割を果たしたこと、特に迫害下にあつては「家庭教会」として、信徒たちが役割分担して子供たちに教理を教えたり、一緒に祈つたりして信仰を深め、神様の特別な恵みで殉教をも受け入れることができたのでした。同時に忘れることのできないのは、司祭たちが決死の覚悟で頻りに密かに信徒の家庭を訪れ、ミサ、赦しの秘跡を授け、励まし続けたことです。

2 この百八十八人殉教者は、全員日本人で、信徒百八十三人、とその信徒たちに徹底的に仕えた代表的な四人の司祭、一人の修道者です。

1 今回は日本各地の殉教者で、時代を超えて各地で尊敬されてきた人たちが、北から申しますと米沢の五十三人、江戸二人(但しそのうちの一人、ペトロ岐部神父は大分県国東半島の出身で、江戸で殉教した人です)、そのほか京都の五十二人、大阪、広島、山口、萩、小倉、大分、熊本、有馬、生月、島原、雲仙、長崎西坂、天草、八代、薩摩(鹿児島)で殉教した方々です。

さて、日本における殉教の歴史をみてきた私たちは、最後にこれらの殉教者たちが現在の私たちに何を伝えたいのか、彼らの列福

にはどんなメッセージがあるのか、一緒に考えてみましょう。

1 聖パウロはローマ人への手紙の中で述べています。「誰がキリストの愛から私たちを引き離すことができましようか。艱難か、苦しみか、迫害か、飢えか、裸か、危険か、死か。然しこれらすべてのことにおいて、私たちは、私たちが愛してくださった方によって輝かしい勝利を収めています。死も、命も、天使も、支配する者も私たちが主キリスト・イエスによつて示された神の愛から引き離すことはできないのです。」

2 家族が全員一緒に殉教したケースが多いと申しあげましたが、家族は社会を構成する最小の基本的共同体であります。すべての家庭がしっかりとあれば、社会もしっかりとあります。信仰、希望、愛で結ばれ、共通の価値観を持ち、何が起きても動ぜず、困難に遭遇すれば互いに助けあい、励ましあつていました。現代の社会では老若男女、また生きる環境などの影響を受け、健全な家庭、一つに結ばれた家庭を見出すのは大変難しいとよく言われます。まして死よりも強い愛で結ばれた家庭は私たちの

かみであり、その家庭には生きる喜び、生きがい、

は生きる喜び、生きがい、

地元とともに築いた歴史を盛大に記念

献堂百周年を迎えた瀬留教会

本国に帰ることなく瀬留の土となつて今も地域を見守っているブイジュ神父(パ
リ外国宣教会)たちの努力で一九〇八年に建てられた瀬留教会が、献堂百周年を迎
え、十二月七日(日)七百人もの人々に見守られ、記念ミサをささげ式典を挙行した。
百周年の記念に鐘楼が建てられた教会には、この日、教会関係者だけでなく地元の人
なども大勢集まり式典を準備するなど、この百年、教会が地域の人たちからも温
かい目で見守られてきたことがうかがい知れる式典となった。



教会の新しいシンボル鐘楼を祝別する郡山司教

午前十時、と司祭館が国の有形文化財
高さ十二・八m
の鐘楼に吊る
された鐘(西
田鋳物製作)
が教会学校の
子どもたちの
手によって打
ち鳴らされ、
記念のミサが
始められた。
記念の年に「国
土の歴史的景
観に寄与して
いる」と聖堂

説教の中で出エジプトに
始まる苦難の歴史を信仰の
源泉として振り返った郡山
司教は、「どんな苦しみや
惨めさにも神の力が勝つて
きた。私たちはその神の勝
利を記憶し、復活を信じる
民だ。この神の業を礎にし
て希望をもって生きていこ
う。そして、砂漠と化した
日本に主の道を整えよとい
う神の要望にこたえよう」と、
どんな事態が起きて
もこの百年間働き続けた神
への信頼を伝え続けるよう
メッセージを送った。

が渡されたほか、「登録有
形文化財」を証しするプ
レートと田畑茂光龍郷町町
長から郡山司教が受け取っ
た。
ミサ後に庭で開かれた祝
賀会はまさに教会のあるべ
き姿となった。
会場設営から信者たちに
協力してくれた地元の人た
ちによる踊りや地元の高校
生による吹奏楽の演奏と地
域の中で生きている教会の
姿が表された。クライマッ
クスの八月踊りの輪の中
に、郡山司教と沖繩から駆
けつけた押川司教の姿、そ
れに大勢の修道者と信者
が浴衣姿の地元の人々の中
で、楽しそうに躍っている

文	純心学園 川上 和	神親心 百年の信仰の恵み賑わいて余興は生 き活き命は躍る
芸	純心学園 川上 和	
短歌	純心学園 前田儀子	鐘 匂
	鴨池教会 山頭信子	紅葉に初雪つもる山の波
	純心学園 山頭信子	除幕式レオ頭して福者なり
	鹿兒島 徳永ノブ子	小鳥来て芝生に遊ぶ生徒かな
	鹿兒島 春山マリ子	クリスマス近づく街の灯の差して
	純心学園 岡 俊郎	銀杏散るまっただ中の除幕式
	純心学園 岡 俊郎	冷たさに負けて痛くも寒い空

新風

「畳と女房は新しい
ほど良い」という言
い草は男女同権意識
の低い時代のもので
すが、畳と女房の代
わりに物と人間に置き換えられな
いか考えてみました。

新しい人になって

の死から救おうとしたのか、その
ときのキリストの役割は何だった
のかについて聖パウロはローマの
信徒への手紙で深い考察を行なっ
ています。
聖パウロによれば、人祖アダム
とエバの罪が全人類を覆っている。

5章17節)である、と。
わたしたちは何度となく、「新し
い掟」「新しい契約」「新しいいぶど
う酒」「新しい歌」「新しいことば」
という単語を聖書の朗読で耳にし
ます。この新しさは神の本性を指
すことばで、未完成なものを完成
させるという意味合いがあ
ります。また、新しさは「初
もの」でもあって、「神に
属するもの」という意味も
あります。

良いものといえるでしょう。
物は完成した時点が最良で、
後は古くなっていくばかり
りです。一方、人間は生まれ
たときは未熟ですが時間と共に成
長し、完成へと向かっていきます。
しかし、加齢は死という結末をも
たらします。
なぜ死が人間を支配しているの
か、神はどのようにして人間をこ

従って、この罪を取り除かない限
り、死からの救いはないと教えま
す。この人祖の罪を取り除いたの
がキリストの十字架での死であつ
た、と説くのです。そして言います、
「キリストと結ばれる人はだれでも
新しく創造された者」(2コリント

旧約時代、神への捧げものは「初
もの」でなければなりません。し
た。一方、新約時代に生きるわた
したちは、キリストによって新し
く創造された、「初もの」であると
いえます。(H・N)

短信

きぼうの電話

十一月二十一日(金)、
今年の養成講座修了者のう
ち六人を電話を取る相談員
に任命した。

パウロ年巡礼

教区にある聖パウロを保
護者とする教会の巡礼を勧
めている郡山司教は、十一
月二十二日(土)に中種子
教会を、また十二月六日に
(土)に嘉渡教会を訪問し
地元信者や巡礼者達とミサ
をささげ交流のひとつときを
持った。

鹿兒島市民クリスマス

鹿兒島キリスト教連合に
よる第四十八回市民クリス
マス(テーマ「いのち 輝
く」)が十二月十四日(日)
午後、ザビエル教会聖堂で
開かれた。今年の講演には、
「こうのとりのゆりかご」
(赤ちゃんポスト)を設置
した慈恵病院(熊本)の蓮
田大二理事長が招かれ、命
の尊さが伝えられた。

マクロビオテック 正食料理教室のご案内

正食の二大原則である身土不二(体と環境はひとつ)
と一物全体(生命あるものはまるごといただく。米なら
玄米、野菜は皮付きのまま)を教えていただきながら私
たちの食生活を見直しませんか?男性の参加も歓迎いた
します。岡神父様の講話もあります。

講師:角屋敷まりこ正食協会料理講師(元吉野幼稚園
保護者)

岡 俊郎神父(イエズス会)
日時:2月10日(火)10時~15時

場所:ザビエル教会ホール
定員:25人 参加費:2,000円

※エプロン、三角巾、筆記用具を持参ください。
参加ご希望の方は植村までお申し込みください。

☎0995-43-3796 e-mail:uemuras@po.mct.ne.jp

1月

今月の暦

- 1日(木) 神の母聖マリア
- 4日(日) 主の公現
- 5日(月) 教区司祭会・教区本部・16時
- 9日(金) レンブートル会例会
- 11日(日) 主の洗礼
- 14日(水) 永島泰蔵神父命日(二〇〇二年)
- 18日(日) 年間第二主日
- 19日(月) ハイシク神父命日(一九八九年)
- 25日(日) 年間第三主日
- 26日(月) 司祭大会・奄美市・29日
- ▼フェリエ神父命日(一九一九年)
- ▼パウロ年巡礼司教ミサ・玉里教会・11時
- ▼カトリック児童福祉の日(献金)
- ▼郡山健次郎司教霊名(聖パウロの回心)

カリタスジャパン報告会

日時 1月29日(木) 19時
場所 名瀬聖心教会三階
報告 バングラディッシュ視察
担当 久保俊弘助祭